

# ふくしまっぴい。

うしざき あやこ  
**牛崎 絢子さん**  
社会福祉法人 共生社 あじさい学園ホーム  
主任・支援員兼世話人



社会福祉法人共生社は、知的障害者の就労支援・生活支援を行っています。古河市と八千代町に事業所があり、事業所で製造したパンや工芸品などを販売する店舗や、新しく立ち上げたレストランを併設しています。古河市にある「あじさい学園ホーム」は、共同生活援助事業・短期入所事業を行い、障害のある方が地域において自立した日常生活を送れるようサポートをしています。同ホームに勤務する牛崎さんは、福祉の仕事に就いて28年目になるベテランスタッフ。「新卒で就職したのが、あじさい学園です。結婚・出産を経て子育てのためにこの仕事を辞めることにしましたが、非常勤だったら働けるのではないかと声をかけていただき、ぜひにと復帰しました。仕事を離れていた期間は2年ぐらい。20年以上八千代町の事業所にいて、

令和2年に古河市の事業所に異動になり、利用者と一緒にパンやカレンダーを作っていました。今のホームに異動したのは、今年度からです」とのこと。

## 施設実習をきっかけに障害者福祉の道へ

牛崎さんが進学した短大の幼児教育科には、保育士のカリキュラムに施設実習があり、重度の障害者施設で、2週間泊まり込みの実習をしました。「重度の障害がある方達なので支援も難しくハードでしたが、利用者と一緒にご飯を食べるなどして、楽しく実習を終えることができました。そこで働いていた若い女性が、すごくきびきび生き生きと仕事をしていて、格好いいなと感じました。その後幼稚園実習もありましたが、幼児教育よりも障害者福祉の方がいいと思い、あじさい学園を知って

## 「ありがとう、直接言ってもらえることが福祉の仕事の魅力」

いたこともあり、就職しました」と、福祉の仕事に就いたきっかけを話してくれました。

現在の仕事は、グループホームで生活面のお手伝いを中心に利用者の支援をしています。平日は朝出勤して朝食の準備、利用者が仕事に行く準備のお手伝いをします。「ほとんどが自分でできる方達なので、『もう少しで時間だよ』と声をかけて遅刻しないように送り出します。休日には、一緒に買い物に行ったり、食事を3食用意しますが、利用者も手伝ってくれます」。グループホームは隣り合わせて4棟あり、10代から50代まで30名の利用者が入居。各棟に支援員が常駐し、スタッフ20人ほどが関わっています。

## 利用者の気持ちに寄り添う「あやこママ」



利用者たちからは、「あやこママ」と呼ばれるという牛崎さん。利用者の成長を見届けられること、変化を感じることが仕事のやりがいになっていると言います。「コミュニケーションが、取れるようになると嬉しいです。ほとんど話さなかった方が、5年ほど経ったら急に『おはよう』と言ってくれるようになった。慣れてなかったから挨拶もしてもらえなかったのが、向こうからしてくれるようになった時は嬉しかったです」。そんな牛崎さんも、仕事で悩むときがあります。「話することで気持ちをうまく伝えられない方が多いので、気持ちが読み取れない、わからない、どんなことを思っているのか、という時には悩みます。その時には、スタッフみんなで共有し話をし、みんなの意見をまとめて方向性を考えていきます」と解決法を話してくれました。

## 純粋な利用者に救われることがある

牛崎さんには、利用者との心に残る思い出があります。それは、この仕事に就いて間もない頃、



仕事で壁にぶつかりどうしたらいいかと悩んでいた夜のことでした。「ある利用者が、『あやちゃん、星がきれいだよ』と言ってくれたのです。そんなにしゃべらない方なのですが、一緒に星を見て泣きました。みんなすごく純粋で救われることが多いし、みんな優しいので私の体調を気遣ってくれたりして、一緒に支え合っています。そんなことが、たくさんあります。みんな、守られて愛されて育ってきたから優しいんだと思います」とあたたかい思いを伝えてくれました。

## 日々、たくさんのありがとうが聞ける仕事

福祉の仕事の魅力は、「自分のしたことに対する成果や効果が見られて、直接『ありがとう』と言ってもらえることが魅力です。日々、たくさんの『ありがとう』を聞いてきました」と牛崎さん。福祉の仕事を検討中の方へのメッセージは、「人に興味があれば向いている仕事です。相手の気持ちを想像できる人なら大丈夫、とにかく飛び込んでみて、利用者の純粋さに触れてほしい」とのことです。牛崎さんの今後の目標は、「今までの経験をうまく後輩たちに伝えていくこと、サービス管理責任者や社会福祉士の資格にチャレンジしていきたいです」と、福祉とともに歩む日々はこれからも続きます。

